

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」
「コンフリクトの人文」セミナー 第49回

「19世紀半ばのインド洋西海域における奴隷交易とその廃絶活動

—二項対立図式の向こう側—

講師：鈴木英明（日本学術振興会特別研究員／財団法人東洋文庫）

要旨：

19世紀半ばごろから本格化するインド洋西海域での奴隷交易廃絶活動を大きな契機として、この海域でパクス・ブリタニカが実現され、また、周縁諸地域、特に東アフリカ沿岸部は植民地支配の時代を迎えることになる。

パクス・ブリタニカとしてのインド洋西海域、あるいは植民地としての東アフリカ沿岸部の歴史を否定することはできない。この状況は20世紀前半を貫き、現代へと繋がっていることは言うまでもない。こうした状況の前段階としてイギリス側の奴隷交易廃絶活動を定置したとき、19世紀インド洋西海域の奴隷交易もまた、現代とまったく切り離れた過去として置き去ることはできない。

一般にインド洋西海域の奴隷交易については、ムスリムによる奴隷交易をイギリス側が廃絶させたという理解が多く見られる。しかし、この一般的な理解に単純に首肯することはできない。本報告は、19世紀半ばの東アフリカ沿岸部を事例にして、この地域が奴隷交易とその廃絶活動との狭間でどのように変化したのか、さらには、奴隷交易と廃絶活動との拮抗における多様な行動主体たちについて明らかにする。そこで明らかにされるのは、ヨーロッパ対非ヨーロッパなどの単純な二項対立では捉えきれない実態である。

講師紹介：

日本学術振興会特別研究員、財団法人東洋文庫所属。おもな研究対象は、インド洋海域世界の交易者、中世アラビア語文献にみえる地理認識など。最近のおもな業績に、「インド洋西海域と『近代』—奴隷の流通を事例にして—」（『史学雑誌2007年）、「マドラは一着の服とコップひとつで旅立った—スワヒリ世界のバティヤー商人たち—」（『自然と文化そしてことば』 葫蘆舎、2008年）などがある。

日時：2010年6月4日（金） 17:00 ～ 19:00

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） 東館2階 ユメヌホール （参加無料）

東館は万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは <http://www.hus.osaka-u.ac.jp> をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085/06-6877-5111

